

令和2年度 高大連携授業を実施しました！！

実施日：令和2年 10月27日(火)～11月4日(水)

〈実施連携大学〉

流通経済大学スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科

〈講師〉

稲垣 裕美教授 大槻 毅教授 向山 昌利准教授 藤原 庸介特任准教授
ライフセービング部レスキューチーム・コンディショニングチーム学生

〈実施目的〉

平成24年に学科改編したスポーツ科学コースの目標である「アスリートの育成と地域に貢献できるスポーツ指導者の資質の育成を目指す」を実現させるために、流通経済大学との高大連携授業を実施する。救命救急、スポーツ生理学、スポーツマネジメント、スポーツ政治等の授業を理解することにより、地域スポーツの指導者や体育教員、東京オリンピックに携わるボランティア等、将来的にスポーツを通じて社会に活躍できる人材を育成する。

☆第1回目☆ ～救命救急～

講師：稲垣 裕美教授

ライフセービング部レスキューチーム・コンディショニングチーム学生11名



10月27日(火) 5時間目 スポーツ科学コース1年生 35名

6時間目 スポーツ科学コース3年生 35名 が受講しました。

稲垣教授と大学生の先輩方に実演や実技指導を合わせながら、丁寧に教えていただきました。

実演では、人形を使用し実際に人が倒れてしまったことを想定して緊張感のあるものでした。

生徒達も真剣に実演を観察し、心配そうに見ていました。



実技練習では、グループで行われ、胸骨圧迫とAEDに使用方法を体験しました。

胸骨圧迫には3つのポイントがあり、「強く」・「速く」・「絶え間なく」を意識しながら行ることが重要です。「強く」では、少し力の弱い女子生徒でも「強く」押せるポイントなどを教えてくれました。

「速く」では、1分間に100回～120回のテンポで行うことが適切とのこと。「絶え間なく」では、グループのメンバーと協力して胸骨圧迫が「絶え間なく」行えるように工夫して行われました。



講義の最後には、終了証とハンドブック
コロナ禍における心肺蘇生についてのプリントを
いただきました。ここで出会えたのも何かの縁！
というわけで、集合写真は今流行りの…
きゅんです❤️ ポーズを皆でしました。

1年生の講義は終了です。

続いて3年生の講義です！



3年生も同じ内容の講義を行いました。

将来は「消防士」・「アスレティックトレーナー」・「スポーツ指導者」等、スポーツに係る職業を
目指す生徒が多く、今回の救命救急はとてもためになるものでした。

授業では教わったものの、実際に体験してみることは初めての生徒が多かったです。



講師 稲垣教授のご厚意で
「大学生とフリースタイル」をつくっていただきました！
「大学ではどんな勉強しますか？」
「部活動と両立は大変ですか？」
「どうしてライフセービングを始めたんですか？」等、
様々な質問でしたが学生さんも



最後に3年生も「終了証」やハンドブック等をいただきました。

3年生の集合写真ポーズは、「最高〜！！」ポーズを皆でしました！

稲垣教授、学生の皆さん、ありがとうございました！！

☆第2回目☆ ～結果論を乗り越えろ！ 生理学を学ぶ意義～

講師：大槻 毅教授

10月29日(木) 5・6時間目 スポーツ科学コース 2・3年生 74名 が受講しました。



「スポーツと生理学は関係ない」と思っていた生徒が多くスポーツを学ぶクラスとしてとても
ためになる講義となりました。なかなか難しい内容を分かりやすく丁寧に講義してくださりました。

☆生徒が得た知識☆

心臓の1分間の拍動回数で60回以下の人は、体のわりには心臓が大きい。

私たちの身体はほぼ血管で出来ている。コンダクタンス＝血管の太さ
実験では、血圧計を手首に装着して「胸の前で測った時」と、「腕を上げて測った時」と、
「腕を下げて測った時」とでは、血圧の数値が全く違った！



講義の内容は、「運動パフォーマンスを上げるために」というテーマを出してくださいました。
例えば、どのタイミングで食事を取ることが望ましいか？サプリメントの効果は本当なのか？

運動時の血圧の変化はどのように関係しているのか？等がありました。

生徒たちは、得た知識を各自が所属する部活動に持ち帰りチームメイトに共有・実践し
更なるパフォーマンス向上を目指していきます。

大槻教授、ありがとうございました！！

☆第3回目☆ ～ラグビーワールドカップを通じた震災～

講師：向山 昌利准教授

11月2日(月) 5・6時間目 スポーツ科学コース 1・2年生 74名 が受講しました。

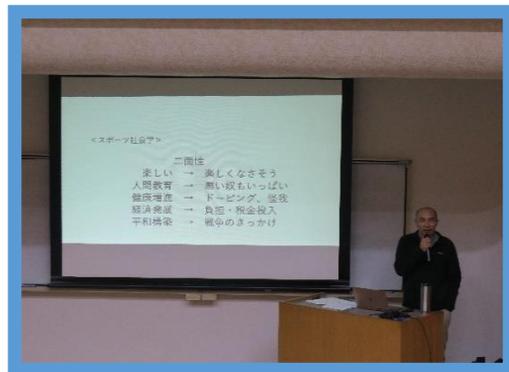


講義では、2019年に行われた「ラグビーワールドカップ」と2011年にあった「東日本大震災」をスポーツマネジメントの視点から見て・考えた内容でした。

「スポーツで復興をする」ということは、どれだけ日本や世界にインパクトを与えるのか？

そのためには何が必要なのか、成功する保証はあるのか、様々な疑問が生まれました。

疑問の正解を求めてしまい、考え込んでしまう場面もありましたが、向山准教授は生徒たちに「正解をしなくていいから何か答えてみよう」とアドバイスをくださり積極的な発言が多くなりました。



スポーツマネジメントとして組織の3つの必要条件は、

「 1. 共通の目標 2. 貢献意欲 3. コミュニケーション 」

この3つの必要条件を実現された岩手県釜石市を見ていくと、ラグビーと関係が深く歴史がある町だったということも知ることが出来ました。

マネジメントには様々な種類がありますが、スポーツマネジメントには人自身がスポーツを通じて動き実現させ、誰かに感動を与えるものだと感じ学ぶことが出来ました。

向山准教授、ありがとうございました！！

☆第4回目☆ ～スポーツと政治～

講師：藤原 庸介特任准教授

11月4日(水) 5・6時間目 スポーツ科学コース1年生 35名 が受講しました。



2020年東京オリンピックが延期になり、2021年に開催が期待されているなかでオリンピックの意義や歴史(過去から現在)などを学びました。

「人がスポーツをする意味は何だと思う？」この質問は前回の向山准教授のお話と結びつくものでした。生徒たちは「楽しむため」や「競技として戦うため」など様々な回答が出ました。



オリンピックがどこで始まったのかは知っていたものの、その先の歴史や競技の種類、オリンピック選手村の中、選手団のエピソードなど私たちでは見ることが出来ない資料映像や写真を見せてくださいました。新たな発見は、オリンピック選手村の建物はオリンピック終了後に販売されることや、その開催国の特徴が建物にも現れていること。宿泊した部屋のシーツカバーは持ち帰ることもできるそうです！（記念にいいですね！）

オリンピックとパラリンピックは2つで1つと考えていましたが、そうではありませんでした。パラリンピックの始まりは、ストック・マンデビル病院で行われていたスポーツ大会でした。参加者は戦争などで車いす生活になってしまった方々で、「車いすでも出来るスポーツをさせよう」と考えたグットマン先生の発案から生まれました。

そして、「パラリンピック」という名称は日本で名付けられた愛称だそうです。



最後に質問タイムが設けられ、良い質問にはプレゼントがありました。

2名の生徒が藤原特任准教授から、オリンピック選手団しかもらえないバッチをいただきました！

素敵なプレゼントをありがとうございます。

藤原特任准教授、ありがとうございました！！

今年も多くの方々のお力添えをいただき、無事の高大連携授業を終了することが出来ました。

流通経済大学スポーツ健康科学部はじめ講師の方々に感謝いたします。

引き続き大学と高校との繋がりを大切に、生徒の学びをより良いものへしてまいります。